

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2017

課題番号：16K13342

研究課題名(和文)録音盤に基づく対東アジア・プロパガンダ放送の研究

研究課題名(英文)Studies based on records of propaganda radio broadcasting toward East Asia.

研究代表者

土屋 礼子(Tsuchiya, Reiko)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：00275504

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：第一に、プロパガンダ・ラジオ放送を行ったOWIのアジア太平洋地域における組織体制を明らかにした。第二に、OWIがアジア太平洋地域では日本語、中国語放送を重視した一方で、朝鮮語放送は1944年まで一段低い位置にあったこと、また、朝鮮語放送の番組内容、放送方針、スタッフの構成の実態を解明した。第三に、OWI中国語及び日本語放送ではAPなどの通信社配信のニュースが用いられたこと、北京語並びに広東語なども含まれ多言語構成であったことを明らかにした。第四に、OWI英語放送の殆どが論評であり、「中国の勝利」シリーズなど在外中国人向けの番組と、1945年の戦後の連合軍の番組が含まれることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：First, detailed organizations of the Office of War Information(OWI), USA for overseas propaganda radio broadcasting toward Asia and Pacific area was revealed from public records of NARA. Second, as a result of reviewing radio programs recorded in Japanese, Chinese and Korean, it became clear that OWI attached importance to both Japanese and Chinese broadcasting, though Korean programs were treated lightly until 1944. Contents, policy and staff of Korean radio programs were also clarified. Third, distinctions of Japanese and Chinese programs in OWI broadcasting were usage of news from news agencies including AP, and linguistic varieties of Chinese including not only Northern Mandarin but also Cantonese. Fourth, most of OWI English programs were commentaries including 'Victory for China' series toward Chinese in USA, and programs for the Allied Powers broadcasted in late 1945 after the end of the war.

研究分野：メディア史

キーワード：ラジオ 宣伝 OWI 戦時情報局 海外放送 朝鮮語 中国語 日本語

1. 研究開始当初の背景

1941年7月にアメリカ合衆国では、プロパガンダを含む一元的な謀報活動を目的とする心理戦のための機構として情報調整局(COI)が設置された。翌年6月COIは、戦時情報局(OWI)と戦略謀報局(OSS)に分割された。前者は国内外に向けた広報などの公然活動を、後者は対敵謀報や隠密作戦などの非公然活動を担当した。太平洋戦争におけるOWIやOSSの活動に関する研究は、1990年代後半から米国立公文書館(NARA)で、関連資料の公開が進んだことから欧米や日本で蓄積を増している。(Maochun Yu OSS in China, 1997, Gerd Horten, Radio Goes to War, 2003. 山本武利(『ブラック・プロパガンダ』2002、山影晃(『延安レポート』2006)、土屋礼子(『対日宣伝ピラが語る太平洋戦争』2011)。

このような研究が蓄積される中で、アメリカ合衆国が行ったプロパガンダ・ラジオの放送内容については資料が少なく、十分に解明されてこなかった。また、進展している占領期及び冷戦期におけるメディア研究の中で、東アジアのプロパガンダ・ラジオ研究も進められているが、それに先立つ太平洋戦争時のプロパガンダ・ラジオがどのような放送を行っていたかの分析が重要だということが認識されてきた。これに関して、申請者は米議会図書館所蔵の音盤資料があることを発見し、その内容の分析に取り組むこととした。

2. 研究の目的

OWIは42年6月から米海外情報部(FIS)が管掌していたVOA放送を引継ぎ、40カ国以上の言語によるプロパガンダ・ラジオ放送を開始した。米議会図書館「OWIコレクション」には、OWIが第二次世界大戦中に放送したプロパガンダ・ラジオの録音盤が収められている。本研究は、これらOWIラジオの日本語番組、中国語番組、朝鮮語番組、及びアジア向けに放送された英語番組の録音盤を収集し、基礎的な分析を行うことで、太平洋戦争中にアメリカが東アジアにむけてどのようなプロパガンダ放送を実施したのか、その全貌を解明するための、実証的な基盤を提示することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、音声資料と文字資料の両方を収集整理し、分析する方法を用いた。

(1)録音盤の収集

米議会図書館OWIコレクションに所蔵される放送番組の録音盤収集である。対象は、朝鮮語、中国語、日本語および英語でアジア向けに放送された番組である。ひとつひとつ番組を聞き、内容を確認したうえで、米議会図書館に録音盤の複写申請を行い、録音盤を入手した。一年目には、朝鮮語、中国語および日本語の録音ファイルを130点以上購入し、二年目にもさらに録音ファイルを70点以上

購入し、合計約200点の録音ファイルを入手した。

(2)文書史料の収集

本研究では、音声資料とともに文字資料であるOWI文書を活用した。OWI文書は、米国立公文書館に所蔵(分類番号208)されており、OWIの組織構成や政策決定過程などを解明するうえで、有用な文書である。さらにOWIを引き継いだ国務省文書も調査対象とす、番組台本資料、番組製作過程に関する文書の収集を行った。これら音声と文字という二つの資料群に分け入りながら、より立体的に分析することを本研究では試みた。

4. 研究成果

(1)OWIの組織体制の解明

第一の成果は、OWIの組織体制を解明したことである。本研究はOWI海外部門のうち、アジア太平洋地域におけるOWIの活動に焦点を当て、組織体制を明らかにした。

(2)OWI朝鮮語放送の初期的分析

第二の成果は、朝鮮語、日本語、中国語によるOWIのプロパガンダ・ラジオ番組の録音盤の内容に関する整理を行ったことである。それにより、OWIがアジア太平洋地域におけるプロパガンダ・ラジオ放送において、日本語、中国語放送の両方を重視していた一方で、朝鮮語放送については、1944年になるまで、一段低い位置に置いていたことが明らかになった。

この他、OWI朝鮮語放送における番組、その放送方針、スタッフの構成などを含めた朝鮮語放送の動態について解明した。

(3)中国語、日本語によるプロパガンダ・ラジオ放送の基礎的整理作業

第三に、OWI中国語および日本語放送に関する基礎的な作業を実施し、その特徴を明らかにした。一つ目の特徴は、放送番組の多くがAPなどの通信社から配信されたニュースによって構成されていたことである。OWIが独自に執筆したニュースの存在は、録音盤においては確認できなかった。二つ目の特徴は、中国語番組とされていたものには、北京語だけでなく、広東語などが含まれており、多言語構成をとっていたことである。

(4)収集した録音盤の中には、アジア向けの英語番組も15点ほど含まれていた。これらは全部個人が評論・意見を述べるコメントリーで、太平洋戦争初期の1942-43年に中国人向けに製作されたと思われるものと、1945年6月以降から12月までの間のもとの大別される。前者の方は「Victory for China」と題されたシリーズを中心に米国在住の中国人学生などに対するメッセージとなっており、ルーズベルト夫人の演説などが含まれていた。また、後者には英国やフィリピンの

人々による発言が採録されており、連合国軍としての立場での放送が意識されていたものと考えられる。

以上の基礎的な分析を通じて、本研究ではOWIがアジア太平洋地域において実施した、多言語によるプロパガンダ・ラジオ放送のうち、朝鮮語、中国語、日本語および英語放送の内容の概略について明らかにした。今後に残された課題としては、録音盤の内容分析をさらに進展させながら、これらの多言語放送の全体像を明らかにすること、またOWIによる放送が、戦後どのようにVOA放送に継承されたのか、またアメリカ軍が展開した同種のプロパガンダ・ラジオ放送とはどのような関係にあったのか、など折り重なって存在している問題を解明していくことである。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

小林聡明「アジア太平洋地域における戦時情報局(OWI)プロパガンダ・ラジオ 朝鮮語放送の実態解明に向けた基礎的分析」『政経研究』第54巻、第2号、日本大学法学会、2017年9月、1-35頁

土屋礼子「占領軍の翻訳通訳局(ATIS)によるインテリジェンス活動」『Intelligence』17号、2017年3月、110-123頁

〔学会発表〕(計4件)

小林聡明 "Psywar Network and Japan-Tokyo, Koje-do, and Okinawa"、国際シンポジウム『朝鮮戦争と東アジアの捕虜：選択と「中立」』梨花女子大学、ソウル、2017年11月18日

土屋礼子「日中戦争開始期の中国における英国および日本の宣伝活動」《抗日战争初期日、英両国の在华宣传活动研究》British and Japanese Propaganda in China at the beginning of the second China-Japanese War 国際シンポジウム「日中戦争をめぐる報道と宣伝及びインテリジェンス」《“抗日战争时期媒体报道与宣传活动”工作坊会议》Propaganda, Journalism and Intelligence about the second China-Japanese War: 上海師範大学人文与传播学院、上海、中国、2017年11月4日

土屋礼子「戦後日本の週刊誌にみる中国及びアジア関係記事」Articles on China and Asian countries in Japanese popular weekly magazines in the post-World War II period.

国際シンポジウム「日中戦争における/関する宣伝と報道」Propaganda and Journalism during/on the second Sino-Japanese War 1937-1945: ケンブリッジ大学ウェストミンスター・カレッジ、ケンブリッジ、英国、2018年3月20-21日

TSUCHIYA Reiko, Panel paper: Journalists of Imperial Japan in China: Narasaki Kan-ichi and the "Asia-hand" Journalists of Japanese Newspaper Companies, AAS-in-Asia 2016, 同志社大学、京都、2016年6月26日

〔図書〕(計3件)

小林聡明「冷戦アジアの米軍の心理戦と拠点としての沖縄」、『熱戦のなかの冷戦、冷戦のなかの熱戦-冷戦アジアの思想心理戦』、2017年6月、チニンジン(ソウル)、327-360頁

土屋礼子編『日本メディア史年表』吉川弘文館、2018年1月、全359頁

土屋礼子・井川充雄編著『近代日本メディア人物誌 ジャーナリスト編』ミネルヴァ書房、2018年1月、全311頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土屋 礼子 (TSUCHIYA, Reiko)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号： 00275504

(2) 研究分担者

小林 聡明 (KOBAYASI, Somei)
日本大学・法学部・准教授
研究者番号： 00514499

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()